
2014年3月期決算説明会資料

2014/4/24

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 久田 眞佐男

執行役常務 宇野 俊一

2014年3月期決算説明会資料

1. 2014年3月期 決算概要
2. 経営方針
3. 2015年3月期 業績予想
4. 参考:データ集



1. 2014年3月期 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2014年1月公表値)

2014年3月期決算(ハイライト)

(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,391	+636	+11%	+91	+1%
営業利益	304	+115	+61%	+24	+9%
経常利益	311	+110	+55%	+31	+11%
当期利益	180	+59	+48%	△12	△6%
一株利益	131円11銭	+42円66銭		△8円49銭	
一株配当	30円00銭	+10円00銭		+10円00銭	
ROE	7.0%	+2.3%		—	
FCF	+117	+51		+67	

売上高・営業利益 偏差説明(2014年1月3Q決算発表時比較)

売上高 (6,300億円 → 6,391億円 +91億円)

- 科学・医用システム： 海外市場での医用分析装置の大口案件取込み等により52億円増加
- 産業・ITシステム： 米国市場向け携帯電話の出荷増等により29億円増加

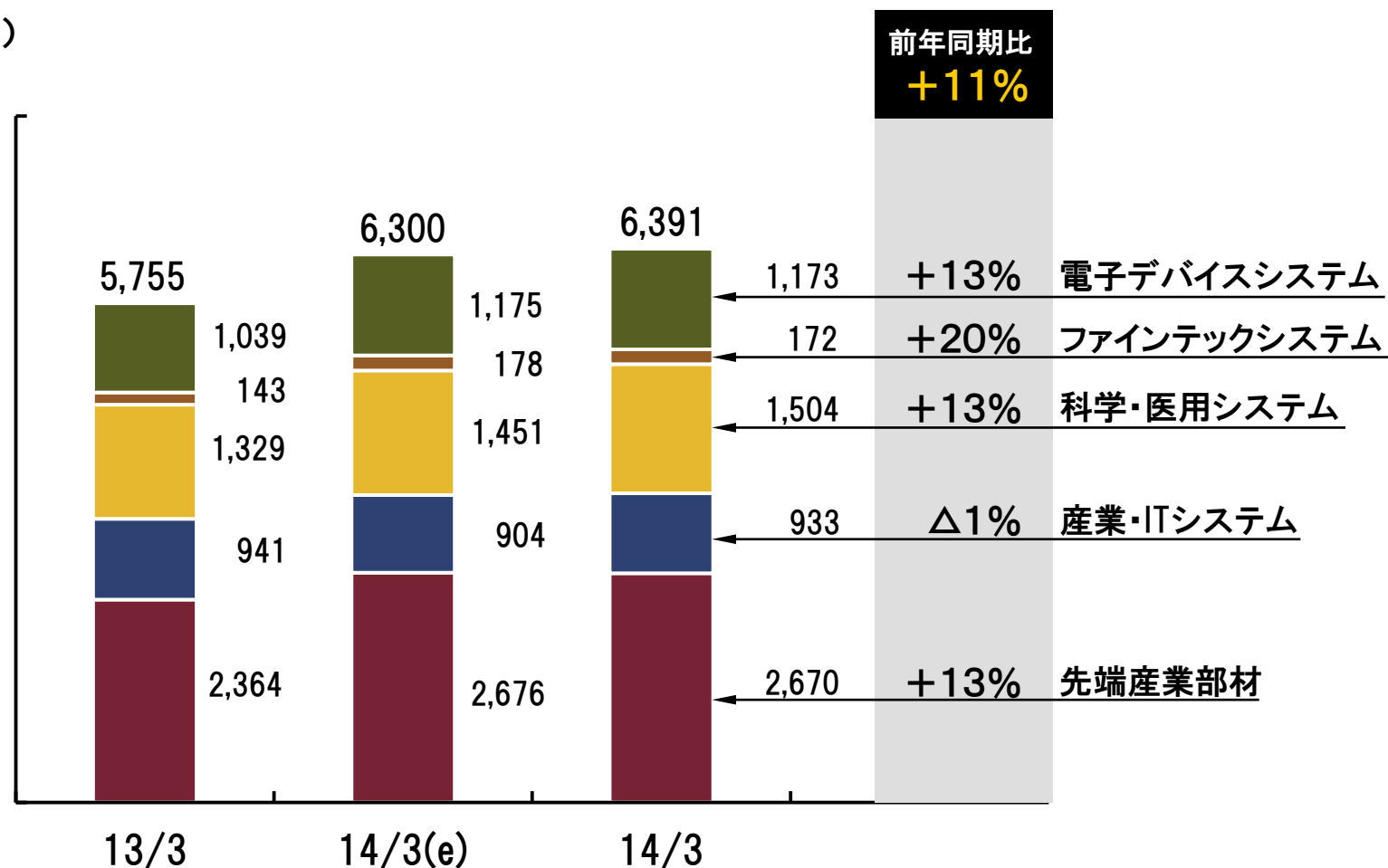
営業利益 (280億円 → 304億円 +24億円)

- 科学・医用システム： 売上高と同様の理由により28億円増加
- ファインテックシステム： 操業度悪化等により8億円減少

2014年3月期決算(売上高)

売上高

(億円)

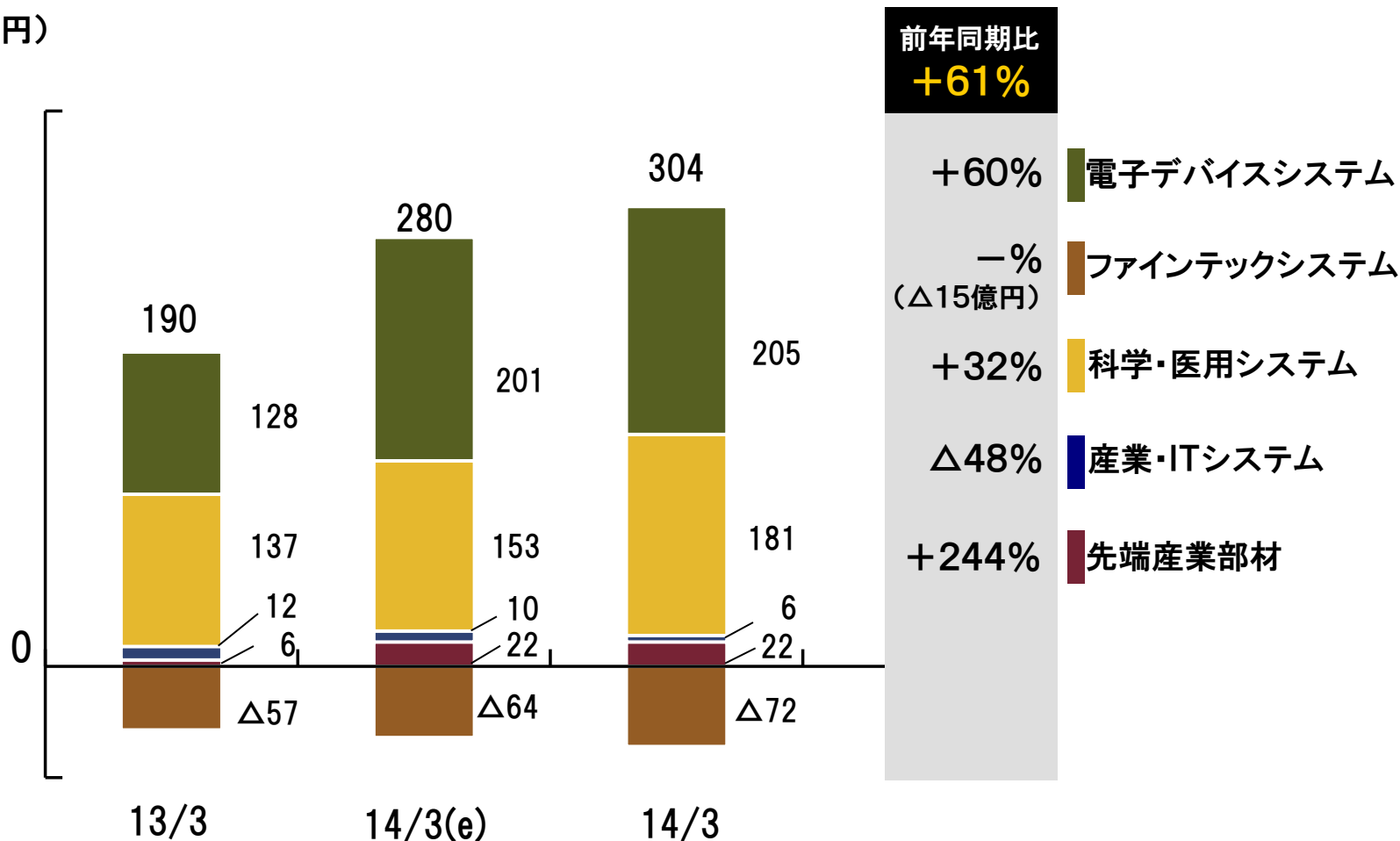


(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2014年3月期決算(営業利益)

営業利益

(億円)



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2014年3月期決算(貸借対照表〔要約〕)

2014年3月末（億円）

			13/3末比				13/3末比
流動資産		3,770	+464	流動負債		1,709	+336
現預金、関係会社預け金	1,347	+166		支払手形および買掛金	1,057	+213	
受取手形および売掛金	1,351	+243		その他	652	+124	
たな卸資産	752	+49		固定負債		511	+219
その他	321	+6		退職給付に係る負債	493	+228	
固定資産		1,179	+149	その他	18	△9	
有形固定資産	751	+88		純資産		2,730	+58
無形固定資産	130	△10		株主資本	2,768	+129	
投資その他の資産	298	+71		その他の包括利益 累計額合計	△43	△73	
				少数株主持分	5	+1	
資産合計		4,949	+613	負債および純資産合計		4,949	+613

・1株当たり純資産:1,981円00銭(前年同期比 +41円19銭)

2014年3月期決算(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)	14/3		14/3
営業活動による キャッシュ・フロー	+363	財務活動による キャッシュ・フロー	△47
税引前利益	+280	配当金の支払	△30
減価償却費	+94	その他	△17
運転資金	△78	換算差額	+31
法人税等支払額	△63		
その他	+131		
投資活動による キャッシュ・フロー	△247		
有価証券の取得・売却	+1		
固定資産取得・売却	△186		
その他	△61		
フリー・キャッシュ・フロー	+117		

	14/3
現金および現金同等物	
期首残高	1,235
増減額	+101
期末残高	1,336

2. 経営方針

1 2020年に向けた長期経営戦略:CS11 (Corporate Strategy 2011 : 2011年策定)

企業ビジョン

ハイテク・ソリューション事業におけるグローバル・トップを目指す

長期経営戦略:CS11 最先端・最前線の事業創造企業としてお客様と共に先頭を走る

2 CS11具現化のための施策

1. CS11の4ターゲット分野を3事業ドメインに括り直し、投資・リソースを傾斜配分
2. 市場環境の変化に対応し、不採算事業の縮小を行い、CS11の実現を加速

3 事業ドメイン

CS11 4ターゲット分野

次世代エレクトロニクス

ライフサイエンス

環境・新エネルギー

社会イノベーション

3事業ドメイン

バイオ・ヘルスケア

社会インフラ

先端産業システム

バイオ・メディカル事業

科学事業・商事事業等

電子デバイスシステム事業・
FPD・HD関連製造装置事業

ドメイン	概要
バイオ・ヘルスケア	①体外診断事業 ②バイオ関連事業(DNAシーケンサ・細胞培養等) ③ライフインフォマティクス(ライフサイエンス×IT)
社会インフラ	新エネルギー等の狭義の社会インフラ事業および社会・産業を支える科学機器・商事事業の基盤ソリューション
先端産業システム	先端産業分野向け製造・検査装置 (既存:半導体・FPD・HDD 新規:MEMS・パワーデバイス他)

1.

成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオ強化

2.

グローバル成長戦略の加速

3.

事業創造力の強化

最注力分野として重点投資

既存事業の拡大に加えて、新分野・新事業を積極展開

▶ 主力事業

- 体外診断事業

- ・生化学・免疫自動分析装置のワールドワイドトップシェア維持・拡大
- ・次世代の柱事業確立に向けた開発加速(血液凝固、細菌、遺伝子)

- DNAシーケンサ

- ・ナノポア型次世代DNAシーケンサ技術の開発推進

▶ 新規事業

- 製薬・食品分野の深耕

- ・市場投入計画の確実な実行

- ライフインフォマティクス事業創出

- ・協業先との連携による開発・事業化加速

- 再生医療向け新規事業

- ・細胞観察・計測・培養装置の開発推進



生化学自動分析装置
「Labospect 008」

当社コアコンピタンスとして強化

基盤ソリューションのブラッシュアップ



科学事業

- ライフサイエンス、新エネルギー、新材料分野へのソリューション提供
 - ・製品ラインナップとアプリケーションの充実
- グローバルな販売力の強化
 - ・海外代理店網再整備による国内トップシェア製品のグローバル展開
- コア技術の強化



商事事業

- 基盤事業の強化
 - ・顧客軸での事業拡大策の追求、仕入先との協業関係強化
- グローバル成長戦略の加速
 - ・ロシア、メキシコ現地法人設立
- 開発事業の促進による事業モデル強化



電界放出形
走査電子顕微鏡
「SU8200シリーズ」

選択と集中による収益性改善

最先端・成長領域へのリソースシフトの加速



主要事業

- 半導体評価・検査装置事業
 - ・主力の測長SEMに光学検査・新事業を加えてポートフォリオ強化
- エッチング装置事業
 - ・主要顧客における獲得工程数の拡大
 - ・海外エンジニアリングサイトでの顧客先端プロセス先行開発、生産サポート



エッチング装置



事業構造改革

- 市場環境の変化等を踏まえ、エレクトロニクス分野の不採算事業を縮小、人員対策等を実施（FPD関連製造装置等）

- ▶ **新事業創生活動の見直し・強化(新事業創生本部を新設)**
 - 戦略立案機能強化によるトップダウンテーマの創出
 - 組織・スキームを集約し、マーケティング、プロジェクトマネジメント機能強化
- ▶ **積極的な事業投資の推進**
 - バイオ・ヘルスケア
 - ・体外診断、DNAシーケンサ事業強化に向けたM&A、アライアンス
 - 社会インフラ(商事部門)
 - ・ビジネスモデル強化・高付加価値化のための継続的な投資の実行
- ▶ **サービス事業の拡大**
 - ワールドワイドでの製品保守サービスに加え、顧客課題の解決に向けたソリューションサービスを展開



3. 2015年3月期 業績予想

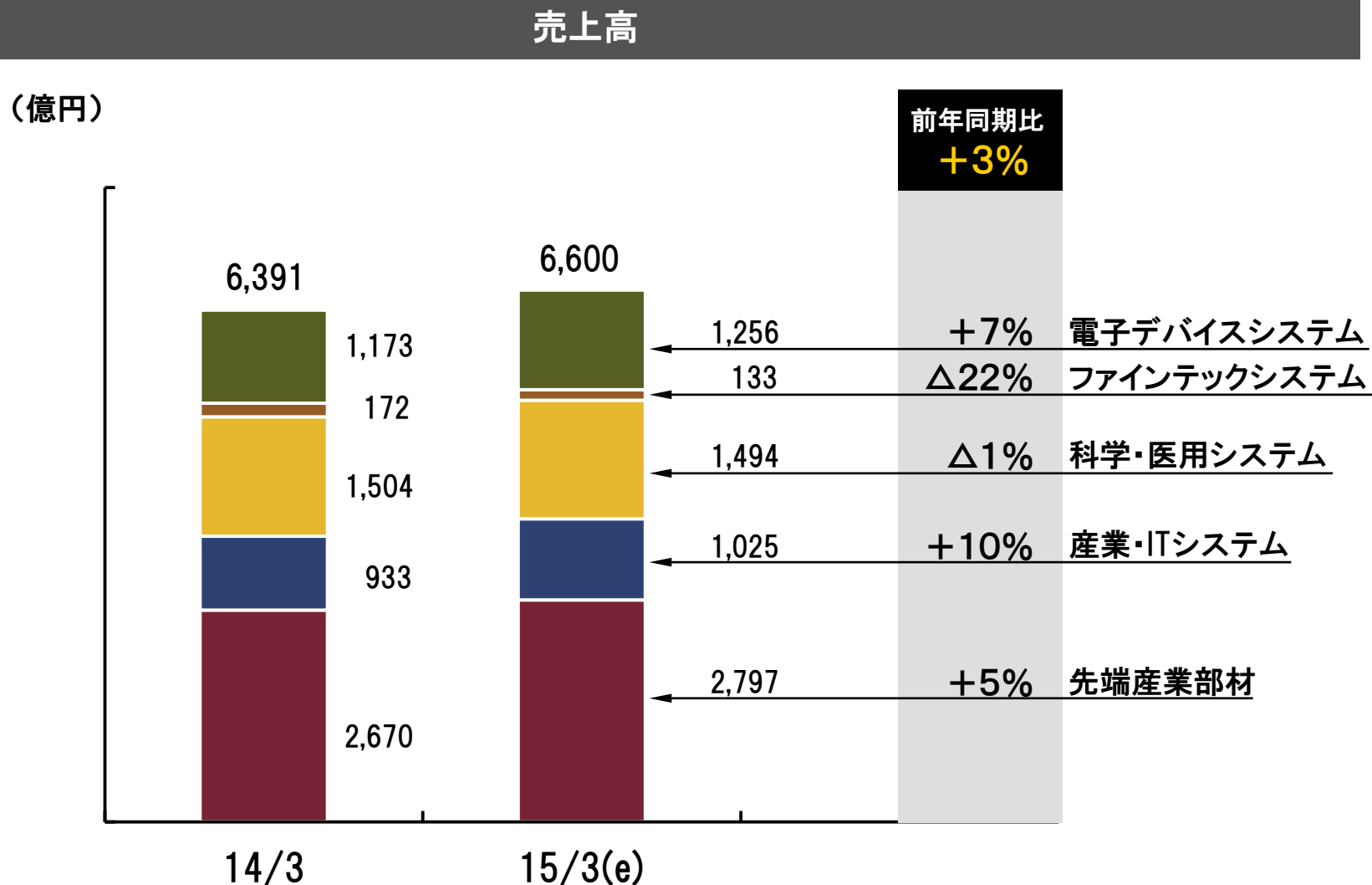
(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は今回予想

2015年3月期業績予想(ハイライト)

	当年度予想	前年度実績	(億円)	
			前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	6,600	6,391	+209	+3%
営業利益	350	304	+46	+15%
経常利益	350	311	+39	+13%
当期利益	256	180	+76	+42%
一株利益	186円13銭	131円11銭	+55円02銭	
一株配当	30円00銭	30円00銭	±0円00銭	
ROE	9.0%	7.0%	+2.0%	
FCF	+100	+117	△17	

・想定レート: 1USD=98円、1EUR=130円

2015年3月期業績予想(売上高)

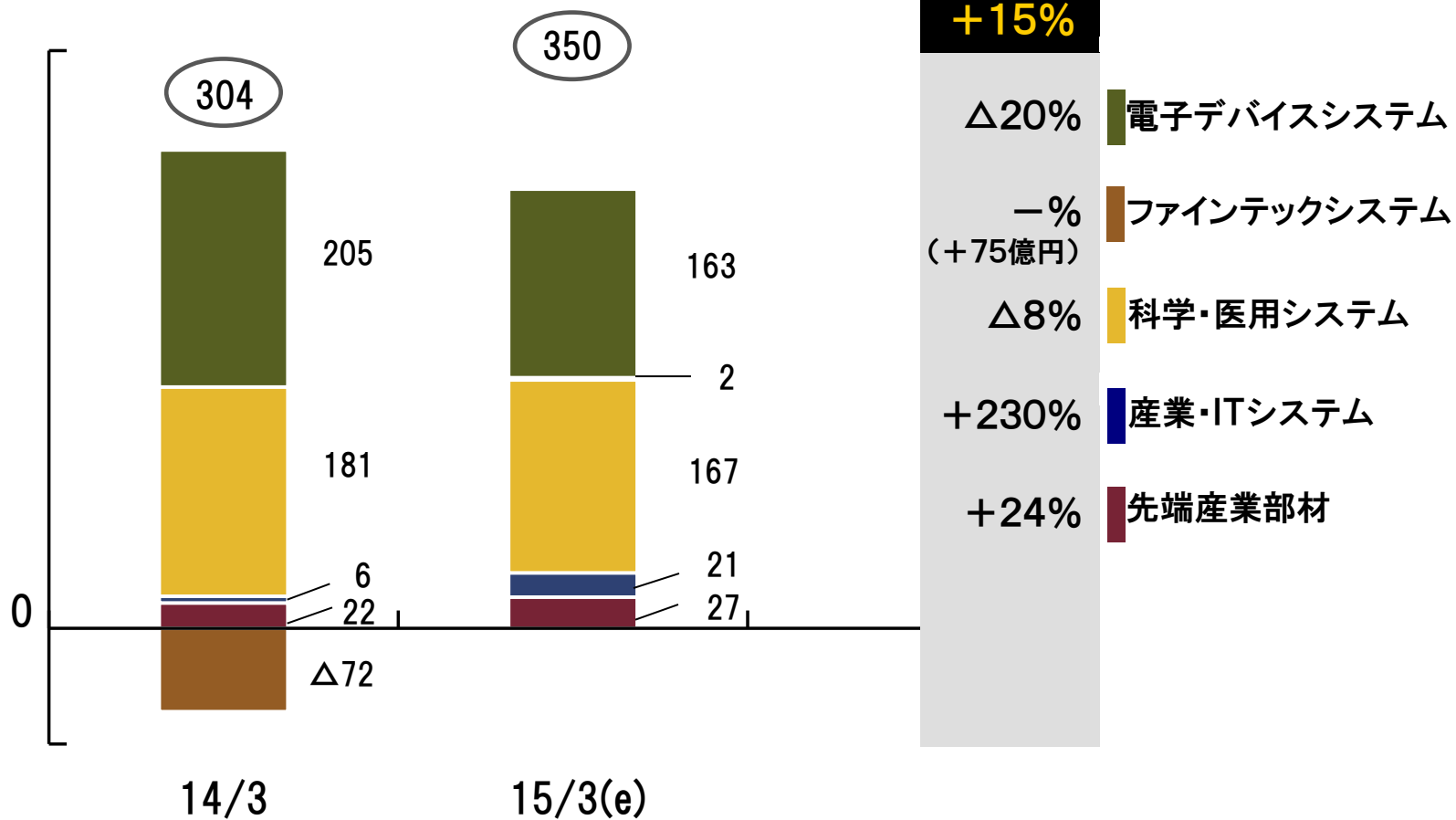


(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2015年3月期業績予想(営業利益)

営業利益

(億円)



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

14年度事業環境

半導体製造装置市場概況

- 13年度半導体前工程装置(WFE*)市場は、大手ファウンドリの20nm積極投資、韓国メーカーによる3D-NAND量産工場の大型投資があり、12年度比+12%成長。当社実績は+22%
- 14年度WFE市場は、前年度比+1%と予想。引き続き16/14nmファウンドリ大型投資が計画されている。モバイルメモリーの微細化、増産対応の投資も堅調
- LogicデバイスでのFinFETトランジスタ量産が拡大し、ダブルパターニング・高アスペクト比の計測・検査ニーズが増加
- 10nm以降のトランジスタ開発が本格的に開始され、新材料、新構造、新型メモリー加工に向けた新たなニーズへの対応が加速
- ダイボンド市場は、引き続きモバイル搭載メモリーの需要が旺盛

実装装置市場概況

- 14年度高速マウンタ市場は、低価格・超高速化が一層加速
新型モバイル機器生産に向けたEMSの投資が再開される見通しだが、市場は13年度比横ばい

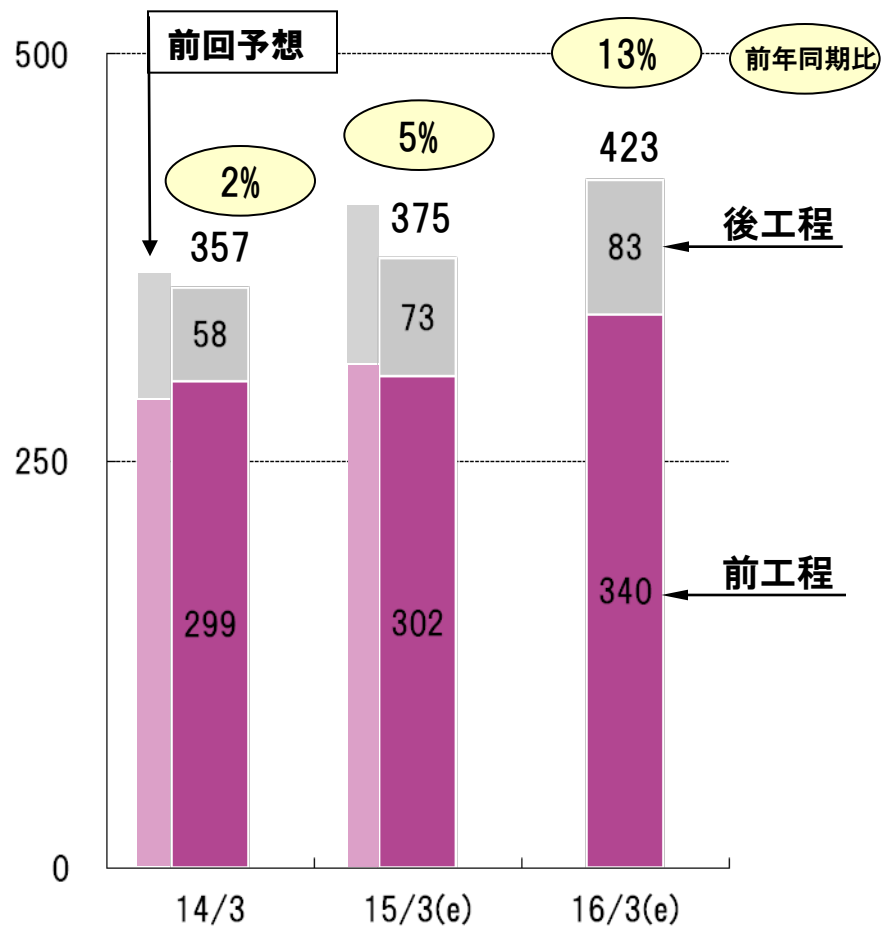
* WFE:Wafer Fabrication Equipment

2015年3月期業績予想(電子デバイスシステム)②

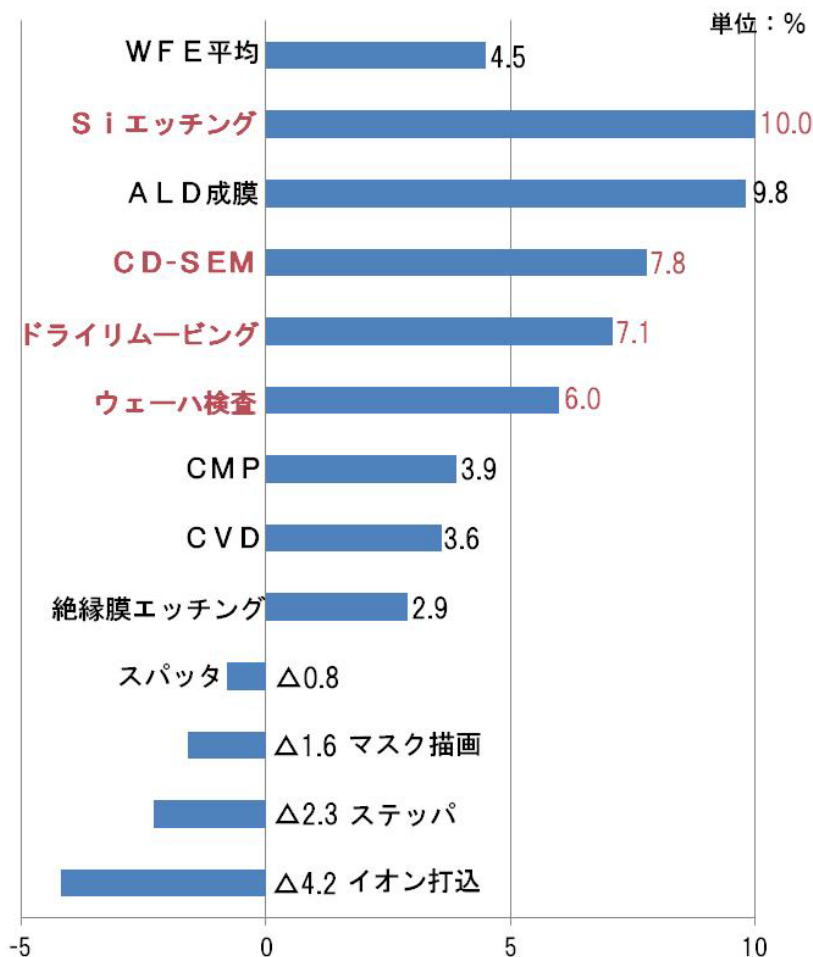
半導体製造装置市場

(参考)装置市場成長率(CAGR2012-16年)

(億USD)



(出所) Gartner(14年4月)データに基づき当社作成
前回予想は13年10月の14年3月期2Q決算発表時の見通し



(出所) Gartner(14年3月)データに基づき当社作成
CD-SEMIは、CAGR2013-2016年

半導体デバイスの微細化動向と当社の対応

14年度半導体プロセス技術の動向と成長分野

分野	動向	成長技術分野
MPU	● 10nm量産技術の開発	・新材料、新構造プロセスの開発 ・DP*¹、FinFET量産に向けた計測技術
ASSP	● 20nm量産本格稼働 ● 16/14nm FinFET量産試作から量産ライン敷設へ	
NAND	● 10nm世代の微細化進行 ● 3D-NAND量産元年	・高アスペクト積層膜垂直加工 ・深穴計測(開口性、寸法)技術
パッケージング	● 積層パッケージ(メモリー) ● フリップチップ実装	・薄ダイ高精度実装技術

*¹ DP : Double Patterning

当社の対応

①先端デバイス対応プロセス開発

- ・海外エンジニアリングサイト(PEC*², PICT*³)を活用した先端顧客との共同開発推進
- ・imec(コンソーシアム)との戦略的パートナーシップ強化

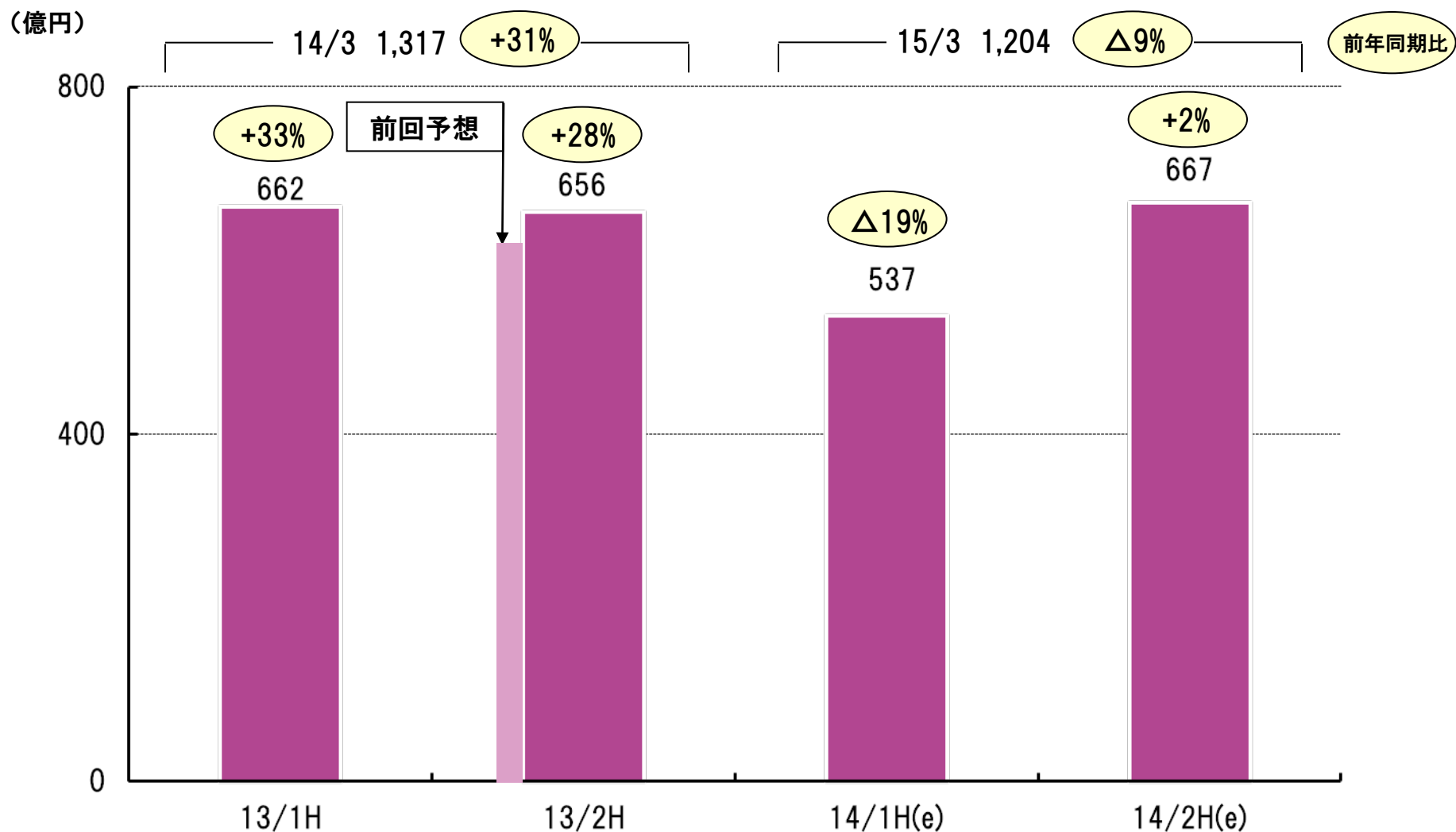
②モジュラー設計手法を活用した多機能化開発(高アスペクト加工・計測、深穴計測等)

③フリップチップ対応ボンドの開発

*² PEC : Process Engineering Center (米国)

*³ PICT : Process Innovation Center (台湾)

受注高の推移



14年度基本戦略

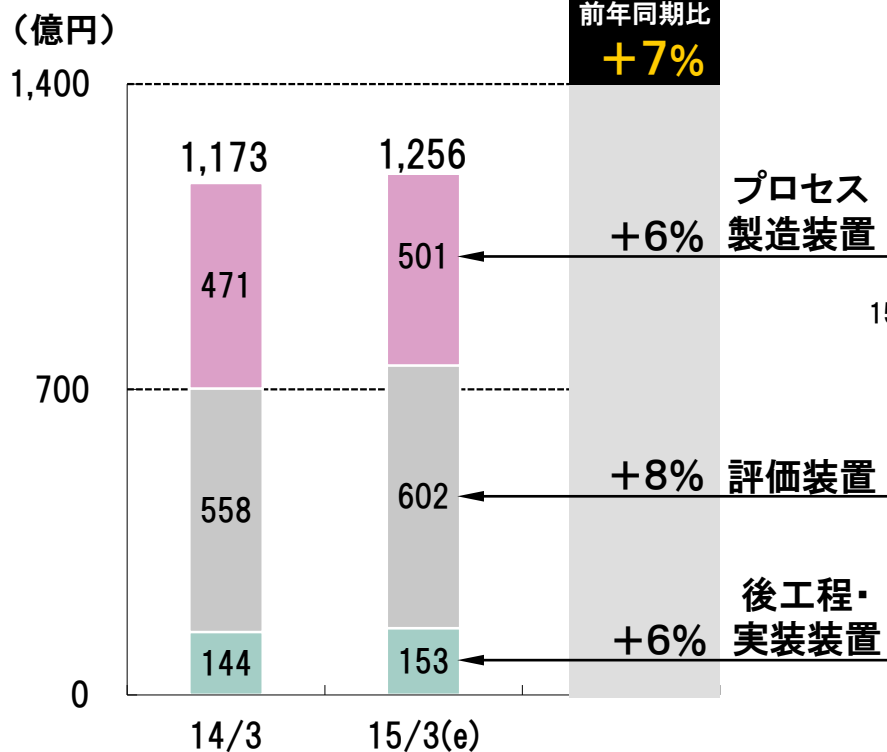
1. グローバル成長戦略の加速

Early Collaborationの推進とエンジニアリングサイト拡充によるグローバル顧客の獲得・セグメントトップ実現

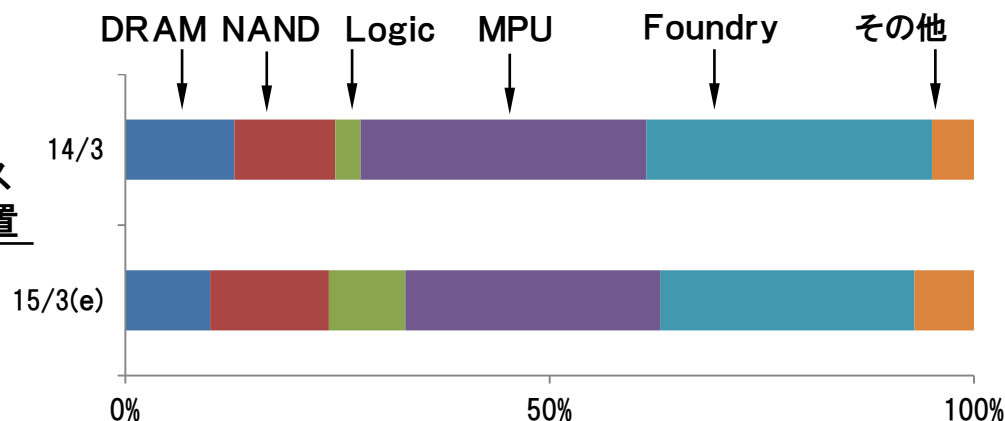
2. 事業ポートフォリオ最適化の推進

コア技術活用による製品ラインナップの強化と新規分野への展開

主要製品群別 売上高の推移



前工程装置 分野別売上高比率



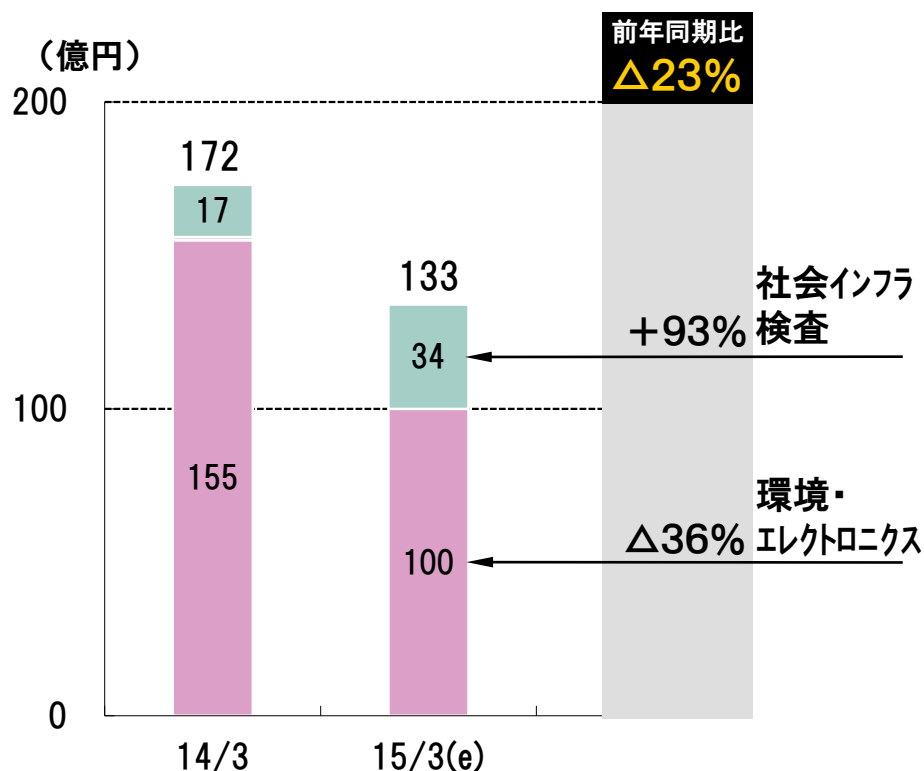
13年度:ファウンドリ、MPUの投資堅調
DRAMの投資増加

14年度:ファウンドリ、MPUの投資継続
NAND、Logicの投資増加

14年度基本戦略

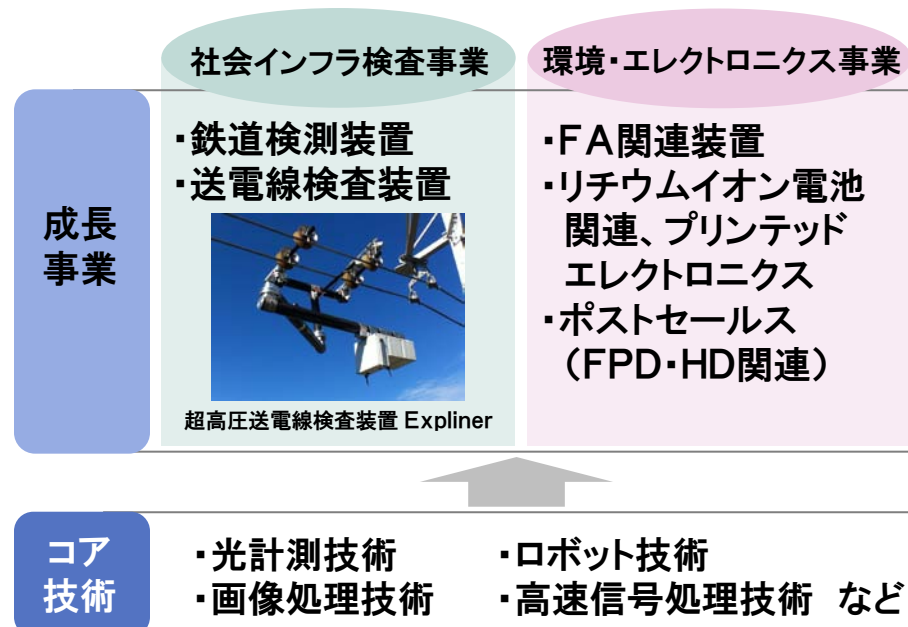
1. 社会インフラ検査事業、FA関連装置事業他へのリソースシフトの加速
2. サービス事業の強化、拡大(FPD・HD関連)

主要製品群別売上高の推移



事業ポートフォリオ戦略

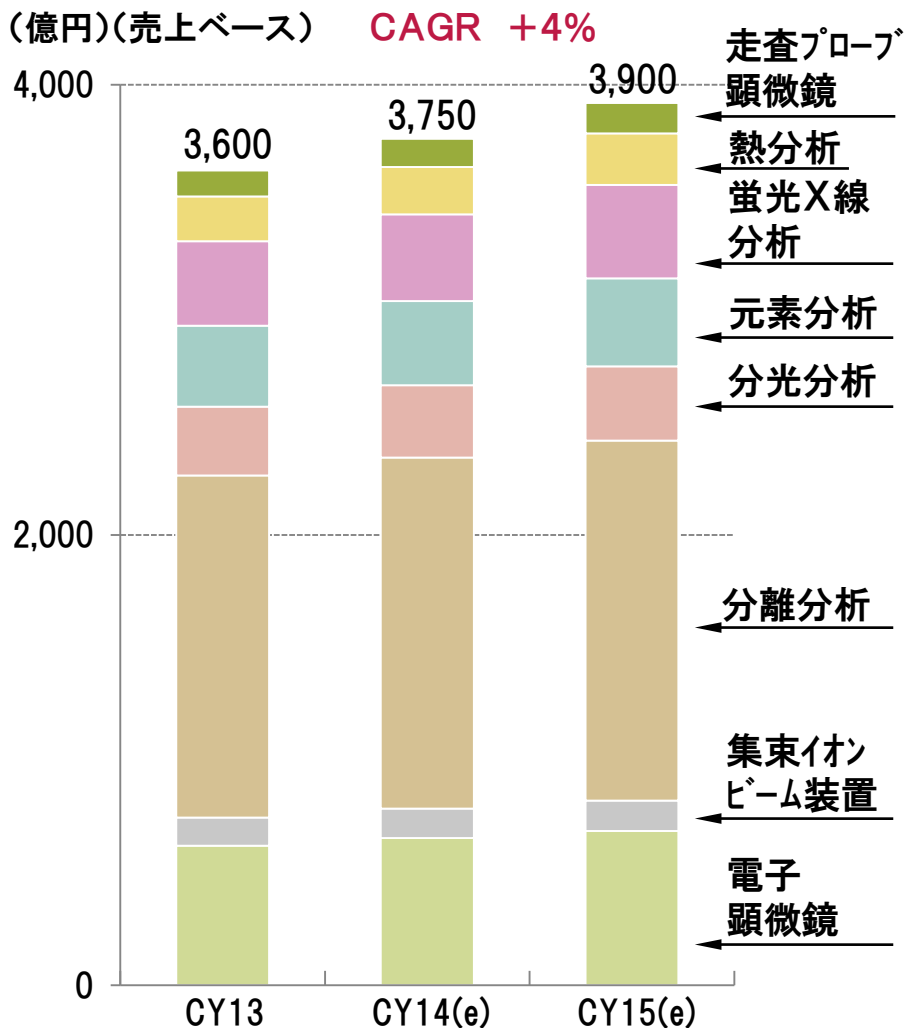
- ・コア技術を活かした事業を成長事業と位置付け、リソースシフトを加速
- ・事業構造を変革し、業容の拡大を図る



2015年3月期業績予想 (科学・医用システム) ①

科学事業

科学市場(当社関連)



(出所)市場調査会社のデータを基に当社推定

14年度事業環境

電子顕微鏡

- ・国内は補正予算による需要が減少するも、民間企業は業績回復による需要が増加
- ・次世代向け先端分野(新エネルギー、新素材、ライフサイエンス)関連市場の需要が増加

分離分析

- ・液体クロマトグラフは汎用タイプの需要が減少も、製薬分野で超高速タイプの需要が増加

蛍光X線分析

- ・リチウムイオン電池関連市場での異物検査需要が拡大
- ・RoHS用検査装置は更新需要が増加

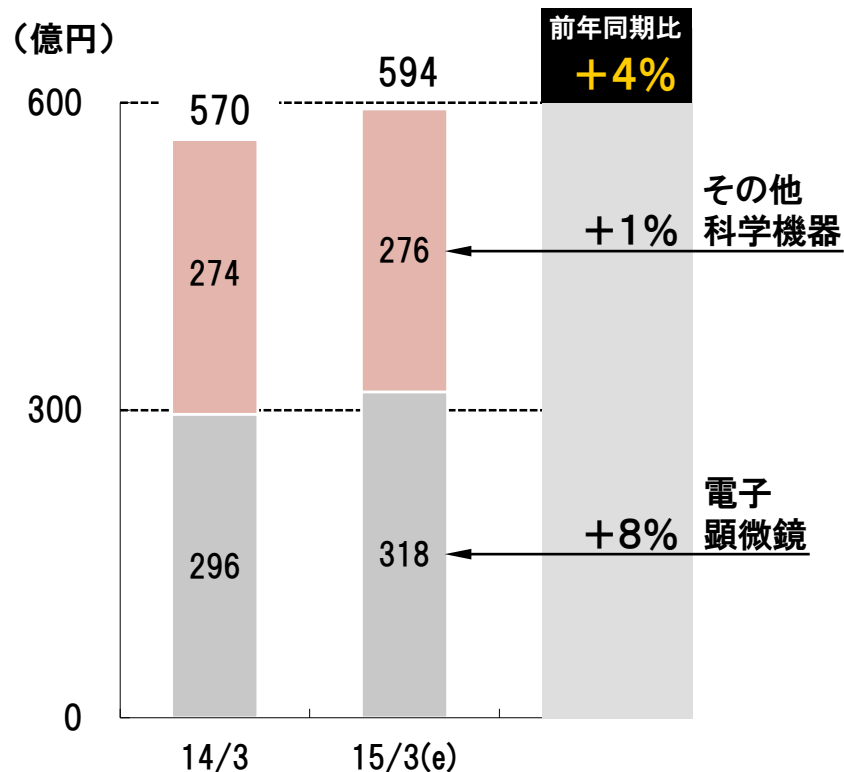
熱分析

- ・機能性材料の熱物性評価需要が増加

14年度基本戦略

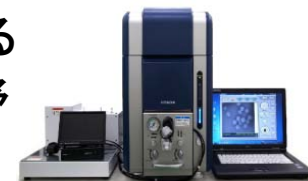
1. 日立ハイテクサイエンス(HHS)とのシナジーの最大化
2. 環境・新エネルギー・新素材およびライフサイエンス分野への専用機の拡販

売上高の推移



今後の取り組み

- (HHS)への分析事業統合による製品ポートフォリオの拡大と両社販売網活用による拡販
- コア技術の強化による(HHS)との共同開発製品の市場投入(FIB-SEM他)
- リチウムイオン電池/燃料電池用異物検査装置の拡販による環境・新エネルギー分野の深耕
- 大気圧走査電子顕微鏡による新素材・ライフサイエンス分野における市場創生と拡販



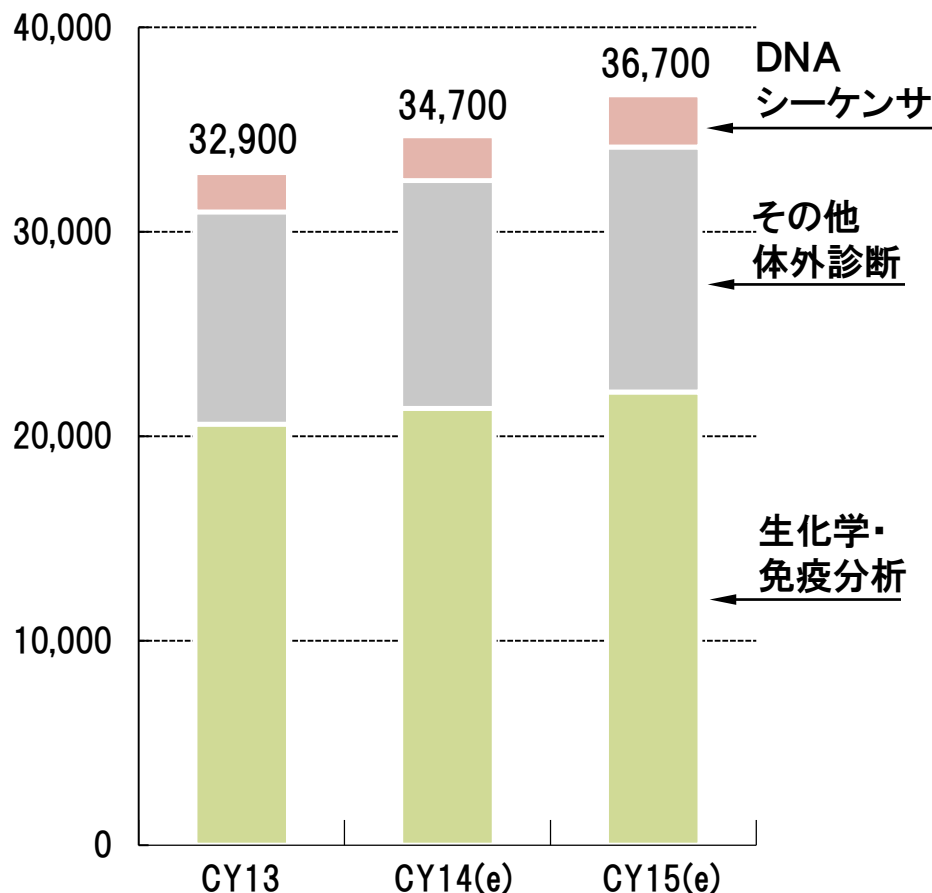
大気圧走査電子顕微鏡

2015年3月期業績予想 (科学・医用システム) ③

バイオ・メディカル事業

バイオ・メディカル市場(当社関連)

(億円)(装置+試薬 売上ベース) CAGR +6%



(出所)市場調査会社のデータを基に当社推定(試薬、装置含む)

14年度事業環境

体外診断

- ・生化学・免疫市場は試薬が大部分を占めるが今後も年率4～5%成長
- ・欧米等先進国市場は2～3%成長、中国を中心とした新興国市場は10%成長
- ・装置は、欧州市場の回復は緩やかであるが、新興国市場における需要拡大により、中期的には堅調に成長

DNAシーケンサ

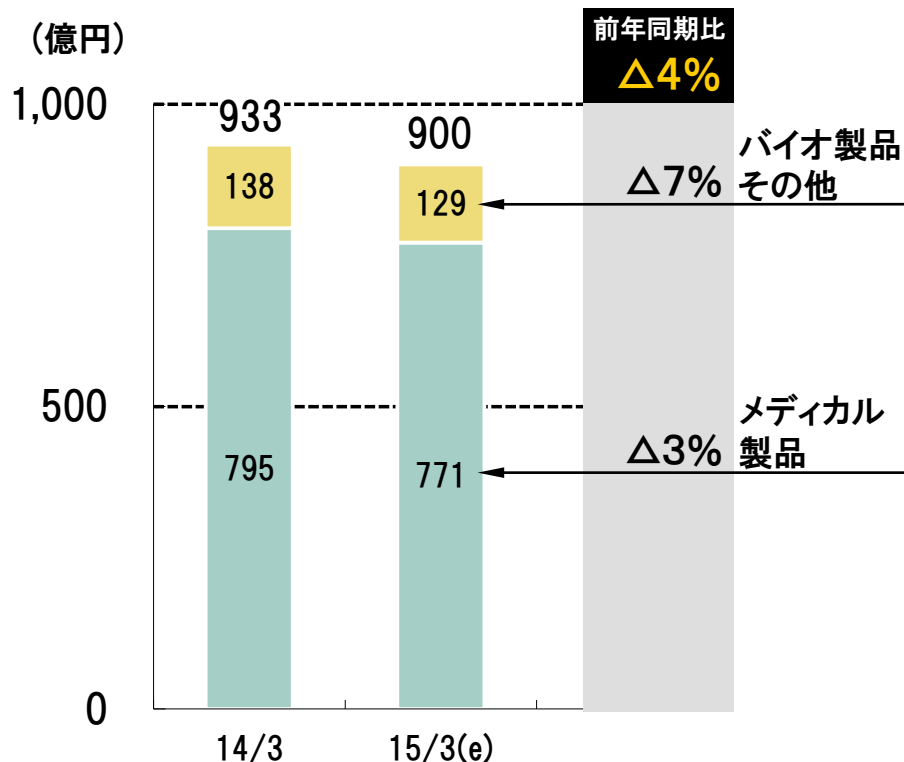
- ・CE*シーケンサはデファクトスタンダードとして根強い需要を堅持。特に犯罪捜査や災害時の身元確認(法医学個人鑑定)では世界中でCEシーケンサの信頼性が高く評価される

*CE:Capillary Electrophoresis(キャピラリー電気泳動方式)

14年度基本戦略

1. 新型検体検査自動化システム投入による生化学・免疫分析装置の拡販
2. CEシーケンサ需要伸長分野における販売推進
3. 次世代シーケンサ技術開発推進

売上高の推移



今後の取り組み

- 新型検体検査自動化システムと大形自動分析装置の総合提案による欧州大規模施設への拡販



Cobas8100
検体検査自動化システム



Cobas8000
大形自動分析装置

- CEシーケンサ3500形による法医学個人鑑定市場の新規・更新需要の確実な取り込み
- 英国Base4社とのナノポアシーケンサ技術共同開発の推進

14年度基本戦略

1. 商社機能深化による事業基盤強化

豊富な顧客・仕入先データをもとに、情報共有化を推進、戦略的アプローチを展開

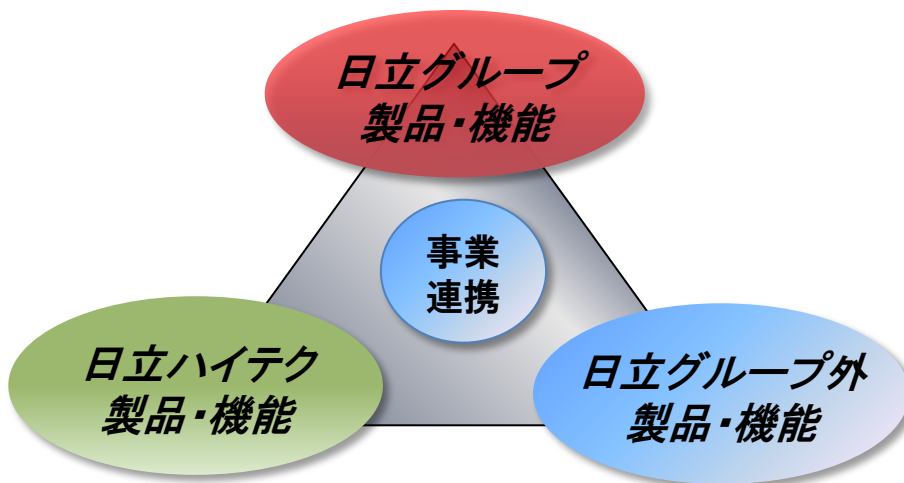
2. 投資促進による新規事業開発の推進

共通分野(自動車、通信モバイル、素材、エネルギー)において、高付加価値事業を創生

3. 顧客視点でのソリューション提供による収益向上

顧客ニーズをいち早く把握、付加価値を提供するサービスによる収益力改善

商事機能の発揮



注目事業



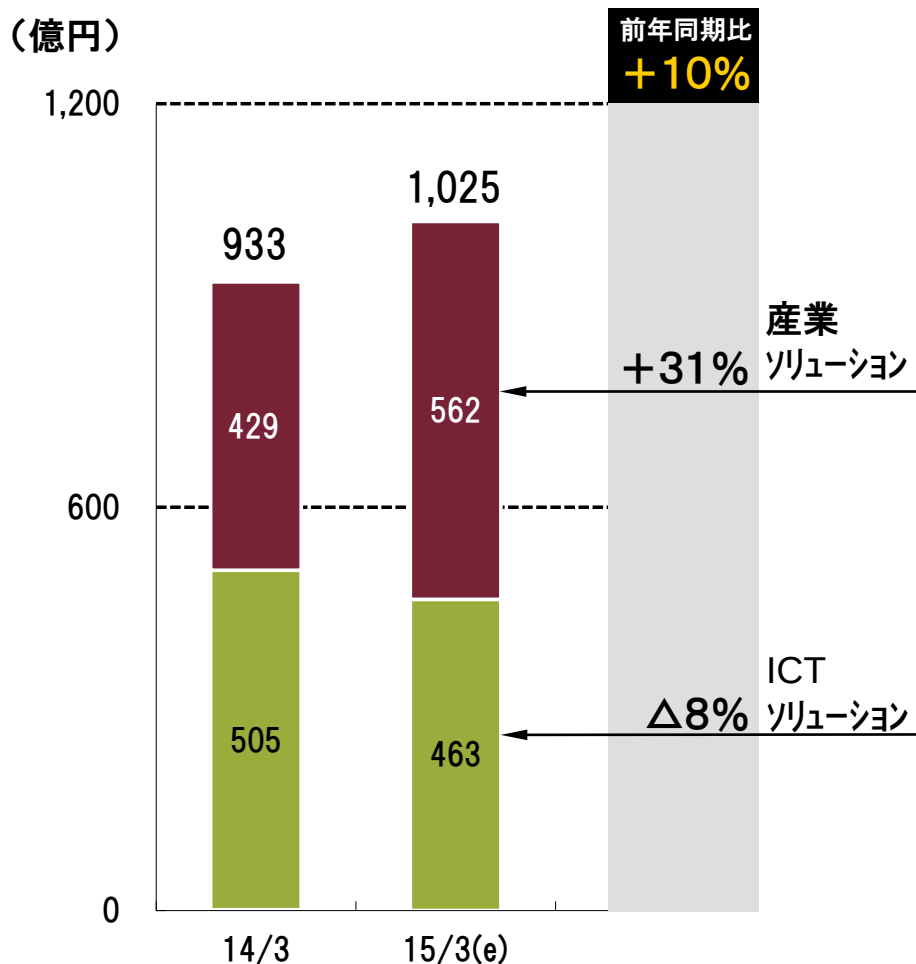
WAN高速化装置

グローバル回線などの長距離伝送での性能低下を抑え、効率的なデータ通信を実現

スマホ用強化ガラス

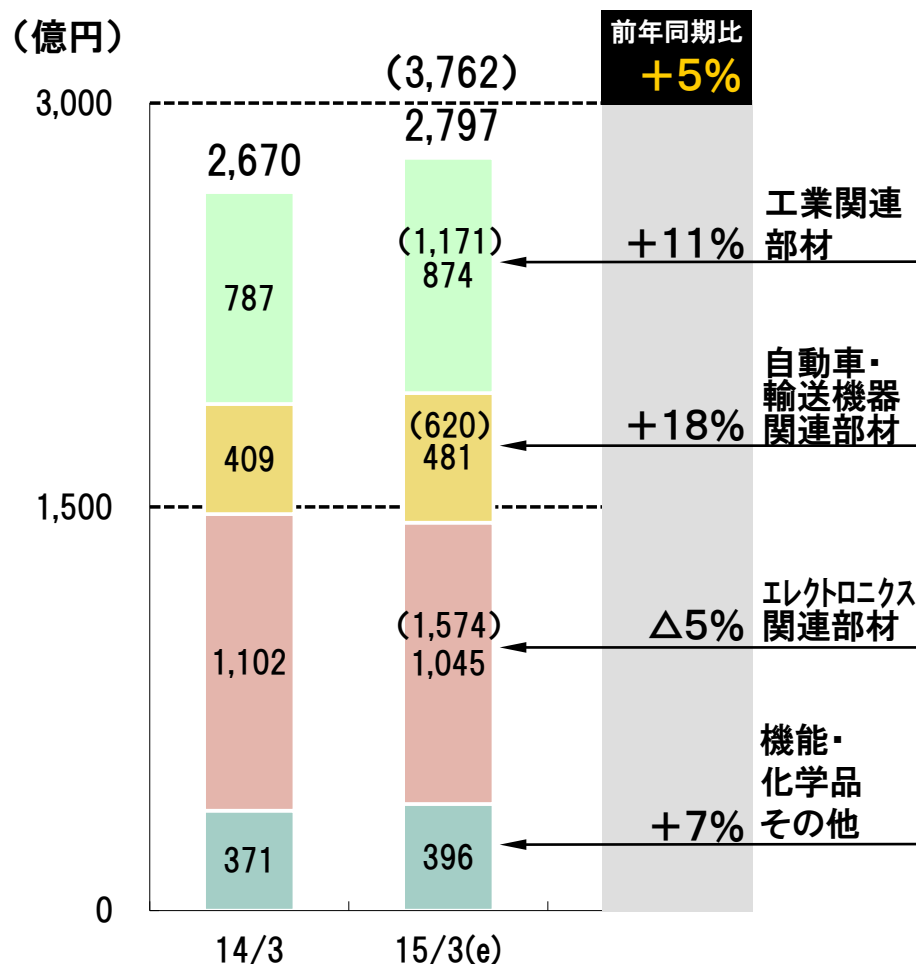
2015年3月期業績予想(産業・ITシステム/先端産業部材)②

産業・ITシステム 売上高の推移



*ICT: Information and Communication Technology
(情報通信技術)

先端産業部材 売上高の推移



* ()は純額表示取引を含む取扱高



4. データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は今回予想

四半期業績の推移

(億円)

			13年 1Q	13年 2Q	13年 3Q	13年 4Q
売上高 － 営業利益	電 子 デ バ イ ス シ ス テ ム	売上高	213	283	274	403
		営業利益	13	39	58	96
	フ ァ イ ン テ ッ ク シ ス テ ム	売上高	12	28	16	116
		営業利益	△20	△15	△18	△20
	科 学 ・ 医 用 シ ス テ ム	売上高	291	371	333	508
		営業利益	16	43	37	85
	産 業 ・ I T シ ス テ ム	売上高	171	258	183	322
		営業利益	△9	4	△6	17
	先 端 産 業 部 材	売上高	642	667	670	692
		営業利益	6	4	8	3
	そ の 他 ・ 調 整 額	売上高	△15	△15	△15	△16
		営業利益	△7	△12	△7	△12
合 計		売上高	1,315	1,592	1,460	2,024
		営業利益	0	63	72	169
経常利益			5	62	74	171
当期利益			△15	51	49	96

■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	13/3	14/3	前年 同期比	15/3(e)	前年 同期比
設備投資額	117	189	+62%	180	△5%
減価償却費	78	94	+20%	119	+27%
研究開発費	218	211	△3%	228	+8%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

■地域別売上高

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	中国大陸	その他	計
13/3	売上高	2,524	630	686	1,776	790	139	5,755
	構成比率	43.9%	10.9%	11.9%	30.9%	13.7%	2.4%	100.0%
14/3	売上高	2,667	854	780	2,000	850	89	6,391
	構成比率	41.7%	13.4%	12.2%	31.3%	13.3%	1.4%	100.0%

主要製品群別売上高の状況

(億円)	13年1Q	13年2Q	13年3Q	13年4Q
電子デバイスシステム	213	283	274	403
プロセス製造装置	90	110	150	121
評価装置	82	119	106	250
後工程・実装装置	41	54	18	33
ファインテックシステム	12	28	16	116
環境・エレクトロニクス	12	25	12	106
社会インフラ検査	0	3	4	10
科学・医用システム	291	371	333	508
電子顕微鏡	38	78	62	117
その他科学機器	51	65	60	99
メディカル製品	171	195	178	252
バイオ製品その他	31	33	34	41
産業・ITシステム	171	258	183	322
産業ソリューション	67	99	78	186
ICTソリューション	105	159	105	136
先端産業部材	642	667	670	692
工業関連部材	188	192	201	206
自動車・輸送機器関連部材	90	98	105	116
エレクトロニクス関連部材	277	278	266	281
機能・化学品その他	86	98	98	89

<資料取り扱い上の注意>

- ・本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

2014年3月期決算説明会資料

お問合せ先
CSR本部 CSR・コーポレートコミュニケーション部
部長 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com